

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9
(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyu>



教 師 冥 利

氷見市教育委員会
教育長 山本 晶

校長として初めて赴任したのは、今はない灘浦中学校である。それまでの8年間教育機関に勤務していたので、生徒と一緒に活動できることがとにかくうれしかった。

家の人の車で来る生徒もいたが、「多少の雨でも自分の力で通う心意気が大事ではないか」と話したところ、翌日、早速と合羽を着て自転車登校してきた生徒を見つけた。生徒玄関へ駆けつけ、「えらい、えらい」と感動し、生徒に不思議がられたのも懐かしい。

打てば響く生徒との生活は、楽しかった。中でも、全校集会で『灘中ライブラリー』と称した本の紹介プリントを配付し、共に味わったことが忘れられない。いじめは既に大きな問題となっており、第1号は三浦綾子の『細川ガラシャ夫人』の抜き書きであった。明智光秀が、母親ひろ子のあばた面を笑った玉子（ガラシャの幼名）を、涙を浮かべいさめる場面である。光秀が、どんな思いを我が子に伝えたかったのかを考えた。


外にも、『小児病棟の四季（細谷亮太）』『空への手紙（佐藤律子）』『旅人（湯川秀樹）』『あたまわるいけど学校が好き（川崎洋）』など22作品を通して、かけがえのない命や努力し続けること、友情等について考えた。


生徒の心に、読書の楽しみや多様な考えを受け入れる広さを育むことを願っての実践だった。資料は、折々の生徒の興味・関心を踏まえて用意したが、思わぬ反応に見通しが不十分だったことを自覚することがあった。より深い読みを教えられたこともあった。それらはすべて、自分自身を鍛えてくれた。


教職人生を振り返ってしみじみ思うことだが、考える知識や機会を与えもせず、生徒の好ましい変化を求めることはできない。幸いにも、教師にはそれができる。おこがましいのだが、生徒の成長を確かめられることが教師冥利の一番であった。かかわった多くの生徒に感謝したい。

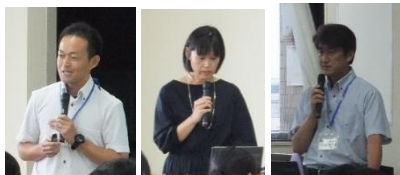
平成29年度 夏季研修会で学びを深める


今年度は、「出会い・発見・宝物」をテーマに、今日的な教育課題を踏まえた夏季研修会を企画しました。その研修会の一端をご紹介します。


★幼保小連携教育合同講演会 7月26日
演題 子どもの発達を踏まえた幼保小連携の在り方
 ～新学習指導要領・改訂保育所保育指針を視野に～
講師 北海道教育大学 教授 阿部美穂子先生
 幼保小の接続支援の基本的な考え方として、「子供の発達の状態に応じて、柔軟な対応をする」
 「各幼・保・小の実情に応じたオリジナルプログラムを生み出していく」ことが大切であると話されました。


★第1回教育セミナー 7月28日
演題 教えること、育てること、そして、愛すること
 ～教師として生きる覚悟を問う～
講師 愛媛大学 教授 平松 義樹先生
 「一人一人の『存在の豊かさ』を問い、考える教育を幼児期から一貫して行う必要がある」と話され、子供たちの表層的な側面だけを捉える「見る」から、子供の心に寄り添う「看る」への転換と、「協働的職場風土」があってこそ子供が育つと話されました。



★ふるさと学習研修会 8月8日
ひみらボ水族館・市立博物館の見学
「氷見の万葉」について
 郷土(氷見)に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探るため、新規採用教員と転入教員、小学3・4年生担任等が、市内の主な施設を見学しながら説明を聞いたり、「氷見の万葉」について講義を受けたりしました。


★仲間に学ぶ研修会 8月8日
講師 比美乃江小学校 教諭 越前 雄介先生
 瀬浦小学校 教諭 飯山真貴子先生
 西條中学校 教諭 小間 健郎先生
 越前先生からは「海外教育事情」、飯山先生からは「国語科指導(発問の在り方)」、小間先生からは「特別支援教育」について、内地留学等で学ばれた内容の一端を実践的な演習を交えながら話していただきました。


★第2回教育セミナー 8月9日
演題 互いに認め合い高め合う学級集団づくり
講師 高知大学 准教授 鹿嶋 真弓先生
 学級集団づくりにおいて「『私はあなたの存在をそこに認めている』ということをするすべての行為、言葉で伝える」承認が大切であると話され、「見る」「挨拶する」「名前を呼ぶ」「肯定的な思いを伝える」などが含まれると話されました。


★第1回英語教育研修会 8月10日
演題 小中学校の英語教育の目指す方向と小中連携
講師 関西外国語大学 教授 中嶋 洋一先生
 「授業は人格形成というねらいをもって、心を育て、力を付けるものである」というテーマの下、参加者自身が様々な活動を通して「主体的・対話的で深い学び」を体験し、これまでの指導を見つめ直す機会となりました。


★道徳教育研修会 8月22日
演題 「特別の教科 道徳」の授業づくりと評価
講師 京都産業大学 教授 柴原 弘志先生
 道徳科の内容とは、「教師と児童生徒が人間としてのよりよい生き方を求めて、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である」と話され、児童生徒一人一人に豊かな「道徳性」を確かに育んでいくことが求められていると話されました。


★ICT活用教育研修会 8月3日、24日
演題 デジタル教材の作成と活用について
講師 富山大学 准教授 長谷川 春生先生
 南部中学校森谷教諭によるタブレットを使った模擬授業を通して、参加者がxSync(バイシンク)の機能の使い方を学びました。参加者が6グループに分かれ、電子黒板とタブレットを活用する教材を作成し10分間の模擬授業を行いました。


QUを活用した魅力ある学級づくり研修会

QU調査を活用した、よりよい学級づくり、授業づくり ～9月21日（木）比美乃江小学校で開催～

研究授業 5年 社会科「水産業のさかんな地域」
 指導者 比美乃江小学校 教諭 井上 真孝 先生
 指導講話 上越教育大学 教授 瀬戸 健 先生



氷見市小学校教育研究会社会科部会及び比美乃江小学校のご協力を得て、「QUを活用した魅力ある学級づくり研修会」を開催しました。井上学級の子供たちは、「氷見産のぶりが有名なのは、なぜだろう」と主体的に調べ、意欲的に発表していました。QUの分析結果を基にグルーピングしたことで、発表を複数で仲よく行ったり、友達同士で声を掛け合ったりする姿が見られました。瀬戸教授は、「声を出さない子供に陽が当たる、学ぶ集団としての学級づくりを」と話されました。

<参加者の声>

- ・QU調査を活用したグループ活動や座席への配慮があることで落ち着いた雰囲気での学習していた。
- ・子供が満足する（分かる、考えが深まる、他と関わる）授業が魅力ある学級をつくると感じた。

小・中学生の力作がいっぱい！！ <氷見市児童生徒科学作品展覧会>

開催期間 9月16日（土）～ 17日（日）
 開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中学校から80点（小学校33点、中学校47点）の力作が集まり、およそ350名の来場がありました。身近な現象に「なぜ？」と疑問をもち、粘り強い観察や実験を通して、その疑問を解決している作品や、興味・関心をもった事象に対して、子供らしい視点から追究を重ね、工夫を凝らしてまとめ上げた作品など、素晴らしい作品ばかりでした。

審査の結果、以下の6作品が、富山県科学展覧会に出品されました。

作品名	学校・学年	名前	県科学展
実けん うくもの しずむもの ～やさいとくだものふしぎ～	湖南小学校 3年	林 皇輔	研究努力賞
モリアオガエルの観察 ～おたまじゃくしのえさは何がいい？～	窪小学校 5年	山本 真衣 山本 結衣	研究努力賞
トンボのひみつⅡ	久目小学校 5年 4年	角田 早織 角田 蒼真	研究努力賞
発見！ にわたりの秘密	久目小学校 6年 3年	岡峯 莉佳 岡峯 悠奈	研究努力賞
電流と磁石	南部中学校 1年	蘭生 拓海	研究努力賞
水の上を転がる水球の研究Ⅱ	西條中学校 科学部	関村フェルナンド 外8名	創意工夫賞 優秀賞

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会（開催案内）

日本体育大学 スポーツ文化学部 教授

<ソウルオリンピック 柔道 男子65kg級 銅メダリスト>

山本 洋祐 氏 講演会

「人間力を高めるためには」

開催日時 12月14日（木）

13時50分～

開催会場 ふれあいスポーツセンター

参加対象 中学2年生、教員、一般希望者等

柔道の元オリンピック選手の山本洋祐氏が、柔道を通して経験されたこと、考えられたことなどを語ってくださいます。





氷見の温かさ

朝日丘小学校 丸山めぐみ

13年振りに氷見に戻り、改めて氷見の温かさを感じることができた。子供たちの成長を共に見守ってくださる地域の方々の温かさ。悩んだ時に支えてくださり、職場を明るくしてくださる先生方の温かさ。頑張る姿や笑顔で元気をくれる子供たちの温かさ。帰宅時に笑顔で迎えてくれる家族の温かさ。これからも人との出会いを大切に、「氷見が大好き」と思える子供たちを育てていきたい。



子供たちと共に

比美乃江小学校 二口 美穂

この半年間、クラスの子供たちと多くの時間を過ごしてきた。「アサガオの花が咲いたよ」「音読がすらすらとできるようになったよ」と目を輝かせて話す子供たち。そんな姿から、毎日元気をもらっている。初めて1年生を担当し、分からないことばかりで不安だった私を、励ましてくれたのは子供たちだった。これからも子供たちと共に成長できる教師であるために、自己研鑽に努めていきたい。



チーム学校

窪小学校 前田 翔太

半年を振り返って、何も分からない私は、先輩の先生方に助けられることが多い毎日だった。何かトラブルがあると、学校全体で対応してくださり、自分一人ではなく、「チーム学校」として動くことの大切さを実感した。これからも、「チーム学校」の一員であることを忘れず、子供たちが、毎日、笑顔で元気に、学校に来ることができるよう、私自身も精一杯の努力をしていきたい。



半年間が過ぎて

湖南小学校 出口 智絵

教師は授業だけではなく、休み時間や放課後等多くの時間を子供たちと過ごしている。勉強でつまづいているところを個別指導したり、いろいろな話をしたり、毎日があつという間に過ぎていく。その時々、ふと見せる子供の表情を見逃さず、声をかけながらより多くの子供と関わり合えるようにしている。子供たちの笑顔で、共に生き生きと活動できるよう努力したい。



笑顔あふれる学級を

十二町小学校 今市 晃央

「僕たちの劇で、お客さんを楽しませたい」は、2年生7名の学習発表会の願いだ。演技の成功を目指し、汗を流して練習に励んだ。友達に頑張りに拍手を送り喜ぶ姿。失敗した仲間を優しく励ます姿。その輪の中に私も共にあることに、教師としての幸せを実感した。出会った頃は、どこか自信なさそうに見えた子供たち。その成長に負けてはられない。これからも共に汗を流し、みんなの笑顔があふれる学級をつくっていきたい。



子供と共に笑顔

海峰小学校 宮田 拓実

私は、毎日、「子供と共に笑顔」を心がけている。私が日々悩んでいたとき、その答えを導き出してくれたのは、子供たちが話しかけてくる時の笑顔や「できた」という笑顔だった。子供たちの、そんな笑顔を見るときが一番幸せである。この笑顔のためにも、子供たちに合った授業をするための教材研究をし、子供たちの力を伸ばせる教師になりたい。



子供の健やかな成長のため

灘浦小学校 桑野美沙季

養護教諭として採用されて半年、毎日子供たちからたくさんの元気をもらっている。保健室には、けがや体調不良以外にも、なんとなくのぞいてみた子供、話を聞いてほしい子供等、様々な子供が来室する。子供たちと接していく上で、根拠となる医学的知識やカウンセリングの技術をもっと身に付けなければならないと感じる。自己研鑽を積み、子供の健やかな成長のため、精一杯取り組んでいきたい。

